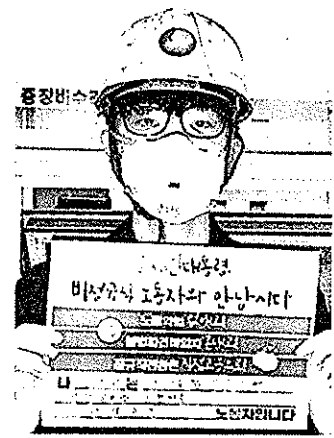


非正規労働の軽い命

コロナの陰で

韓国総選挙4・15

若者の雇用格差



①事故の10日前、泰安火力発電所で非正規労働者の環境改善を訴えるプラカードを持つ金鎔均さん＝関係者提供
 ②ソウルで2日、亡き息子鎔均さんと撮った写真を見せながら語る金美叔さん＝相坂穰撮影

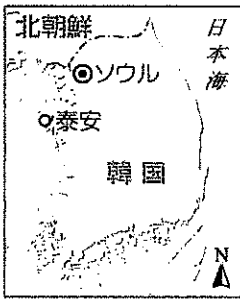


「土のスプーンで育った子も、懸命に働けばいつか金のスプーンを手に入れられると信じていた」。金美叔さん(金)は、二十四歳で亡くなった長男の鎔均さんと二人で撮った写真を見つめ、涙を浮かべた。二種類のスプーンは、韓国で広がる貧富の差の代名詞だ。

中部・忠清北道泰安市の警察から緊急の連絡を受けたのは、二〇一八年十二月十一日未明だった。病院の霊安室で、鎔均さんの顔は生前のままに見えたが、損傷した首から下は直接見ることが許されなかった。

鎔均さんは三カ月前の九月中旬、泰安にある火力発電所の下請けの非正規職員になったばかりだった。十

二時間の当直勤務中、燃料の石炭運搬用のベルトコンベヤーに体を挟まれた。コンベヤーには、安全のため作業員が機械内に入ら



遺族、劣悪環境改善訴え

「なぜ息子は劣悪な環境で働かなくてはならなかったのか」。母親として悔いた。心臓病の夫は定職に就けず、美叔さんが非正規の仕事をして生計を立てた。経済的余裕はなく、鎔均さんは高校まで塾に通わず、地方の短大を卒業した。

韓国社会は巨大財閥の力が強く、大都市の有名大学を出ていなければ安定した職を得ることは難しい。韓国の二十代の若年失業率は10%前後で推移し、日本の二・三倍。だが、鎔均さんは公営電力会社への正規雇用の道も開かれていると信じて働いていたという。

美叔さんは一四一八年の五年間に、国内の発電所

ずに済むように自動清掃装置が備えられている。だが現場ではコスト削減のため作業員が内部に入り、シャベルで廃棄物をかきだしていた。鎔均さんは当時、一人で勤務。異常時は片方が緊急停止ボタンを押せるように二人一組で勤務するマニュアルも守られず、国の事故調査委員会は「一人で業務をさせていたことは問題だ」と指摘した。

「なぜ息子は劣悪な環境で働かなくてはならなかったのか」。母親として悔いた。心臓病の夫は定職に就けず、美叔さんが非正規の仕事をして生計を立てた。経済的余裕はなく、鎔均さんは高校まで塾に通わず、地方の短大を卒業した。

韓国社会は巨大財閥の力が強く、大都市の有名大学を出ていなければ安定した職を得ることは難しい。韓国の二十代の若年失業率は10%前後で推移し、日本の二・三倍。だが、鎔均さんは公営電力会社への正規雇用の道も開かれていると信じて働いていたという。

美叔さんは一四一八年の五年間に、国内の発電所

(ソウル・相坂穰)